

ワークショップ「学生による広域避難対策提案」開催結果報告

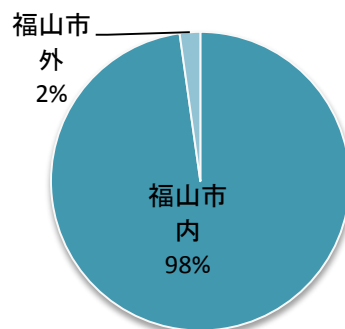
- 1. 日時 2013年1月30日 15:00～17:00
- 2. 場所 中講義室A
- 3. 参加者

4. アンケート集計結果

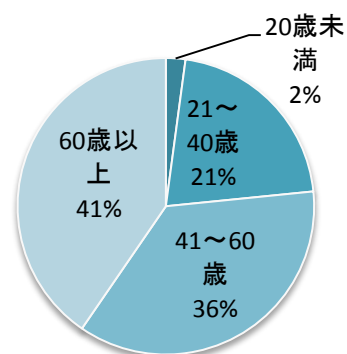
回収(枚)
47

アンケート項目

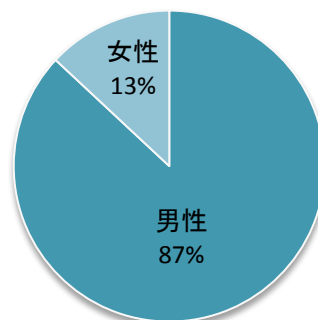
1. お住まいは	
福山市内	44
福山市外	1



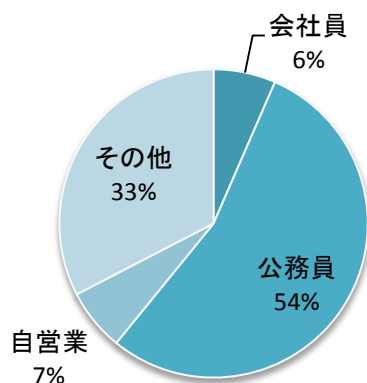
2. 年齢	
20歳未満	1
21～40歳	10
41～60歳	17
60歳以上	19



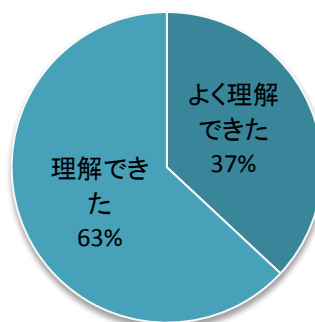
3. 性別	
男性	40
女性	6



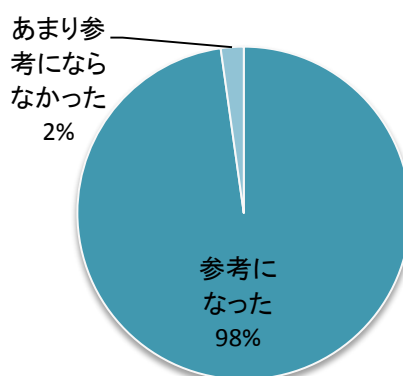
4. 職業	
学生	0
会社員	3
公務員	25
自営業	3
その他	15



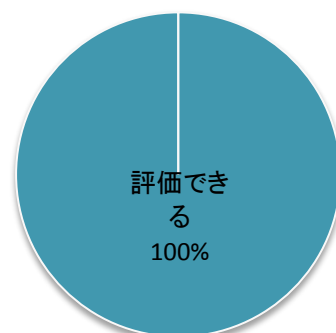
5. 学生の発表	
よく理解できた	17
理解できた	29
あまり理解できなかった	0
全く理解できなかった	0



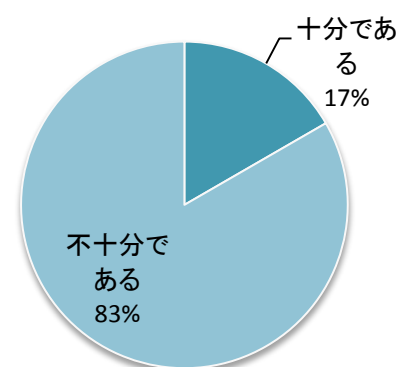
6. 内容について	
参考になった	44
あまり参考にならなかった	1



7. 学生の活動について	
評価できる	46
あまり評価できない	0



8. 防災への行政の取り組み	
十分である	7
不十分である	35



防災への行政の取り組みが不十分であると思われる点

- ・ 住民と接点を持っていない
- ・ 本気度が感じられない
- ・ 市民への周知
- ・ 防災マップの作成
- ・ 地域のコミュニティー
- ・ 防災で十分ということはありません。
- ・ 広域被害対策がもうすこしである。
- ・ 具体性がない
- ・ 津波対策が不十分
- ・ 対策の各論が不十分
- ・ 重点施策として引き続き取り組んでいただきたい。
- ・ 避難場所運営の想定
- ・ 情報提供
- ・ 最大8mの津波を行政は考えていない。
- ・ 市民への周知
- ・ 避難所の目的が明確ではない。学区・公園・etc.。
- ・ 学生に言われるまでもないことが多い
- ・ 想定津波高の看板設置や津波避難ビルを増やす。
- ・ 広域避難場所での設備不足。トイレが足りなければベンチがトイレに、竈になるとか考えて対応してほしい。
- ・ 防災マップが活用されていない点。提案の中にあつた、ごみ出しの表につけたり家庭でも間に入る所に置けるようにすることは必要だと思う。
- ・ ハザードマップを家庭個々に配布、地域で練習しましょう。
- ・ 防災の基本的な最新情報が出てこない
- ・ 最新情報・主体をどこに置かかがはっきりしていない
- ・ 危機管理防災課の認識がお粗末すぎる
- ・ ハザードマップ・避難ビルの確保・津波に対する対策(避難ルートの確立)・どこへ逃げるかの周知。
- ・ 避難場所の位置と数
- ・ 最新のハザードマップの各家庭への配布をお願いしたい。

防災になにが今一番必要ですか

- ・ 訓練を重ねること
- ・ 行政・市民・大学情報の共有
- ・ 最新の身近なハザードマップ
- ・ 住民一人一人の防災意識
- ・ 民間施設との協力
- ・ 町民への理解への努力
- ・ 細かな配慮・状況別の対応方法・地域の人の日頃からの備え
- ・ 地域住民の防災意識向上が求められる
- ・ 自覚
- ・ 市民全体への意識づけ
- ・ 市民の意識の高揚
- ・ 「自分の命は自分で守る」
- ・ 個人個人の防災意識を高めること
- ・ 具体的で現実的な地域の避難方法の検証
- ・ 継続的に防災情報を提供し防災意識を高めていくこと。
- ・ 女性や高齢者・子どもの視点
- ・ 正しい情報
- ・ 各学区で安全性はどこが一番なのか話し合い、行政も安心安全の方向性で対策を早く決定し各町内会に報告
- ・ 一文字・芦田川の堤防の危険性・補強不十分(高さなど)
- ・ 市民一人一人の防災意識の向上やハード面での防災設備
- ・ 実態把握・災害事例・想定方法の送別、最低限求めるものに対するPOCA
- ・ 地域の力を頼りにすること、そのための啓発が必要。
- ・ 防災教育(釜石のように小中学生から防災について)、福山は災害があまりないのでマヒしている。
- ・ 地域のつながり
- ・ 事前情報
- ・ 防災計画の詳細化時系列化・対策の検討
- ・ まず、行政の意識改革し、各コミュニティに対し一緒に意識改革する。次に合わせて市民の意識改革を図ることから始め行動を起こすこと。
- ・ 防災に対する意識・関心を高めること。
- ・ 普段からの心がけ・防災意識
- ・ 備え
- ・ 地域が自分たちで取り組む。市や他人に文句を言うのではなく自分たちで取り組み準備をする。

その他・感想

- 行政の取り組みではハード面では限界があり、それを補うためのソフト事業を進めている点では評価できる。行政という大きな組織でなし町内会が主導で進めるべき。それか、協働のまちづくりだと思う。たとえば行政が潮位表をするのではなく町内会が行うことで地域防災の意識が変わる。
- 若い人で防災意識を持っていただけるといいことです。継続をお願いいたします。
- 学生の皆さん、市民・行政の前で堂々と発表されているのが立派でした。
- 参加された方がたくさん意見を持っておられたので、次回はぜひ意見交換をメイン(長く)したワークショップを見たいです。
- 学生の活動をとても評価します。これをもとに次の段階に進めてほしい。そうすれば全体の防災意識の向上につながると思います。
- 今後も調査研究して市民に発信してください。